

地域包括支援センター人材育成研修について

1 平成30年度までの取組の結果

(1) 29年度までの取組

平成26年度から4年間、西片医療福祉研究会（山田美代子代表）に委託して、スーパービジョンの考え方を軸に、地域包括支援センターが組織として機能できるよう、スーパービジョンの基本や応用、組織内での相談体制（トレーナーの配置、スーパーバイザー、スーパーバイジー等）、専門職間の連携等について人材育成研修を行ってきた。

その結果、地域包括支援センターにおいて、スーパービジョンの考え方はほぼ定着し、組織的な対応ができるようになったものの、トレーナーの位置づけについては浸透しきれなかったものと考えている。

また、年度末に地域包括支援センター全職員に実施したアンケートの結果、地域包括支援センターが「地域」の関係者等から期待されていること、「地域」の課題解決に向けて取り組んでいきたいと考えていること、その方法等について悩んでいること等が分かった。

(2) 地域包括支援センターを取り巻く環境の変化

- 平成31年度中に、茅ヶ崎南地区に新たな地域包括支援センターを整備することとなった。
- 地域包括支援センターによっては職員の入れ替わりが多い。
- 来所者から暴言、暴力を受けるなどの被害を受けたことがあった。
- 時には不当とも思われるような苦情を訴える高齢者や家族等への対応に迫られることがある。
- 地域の方々から地域の課題把握や解決に向けて、期待されることが多い。

(3) 平成30年度の地域包括支援センター人材育成研修について

上記を踏まえ、30年度は次のとおり実施した。

研修内容	実施年月日	対象	講師等
●「地域」を理解し、地区診断をしていくための知識やスキルの向上に向けた研修	12月26日	地域包括支援センター職員	聖徳大学心理・福祉学部教授 豊田 宗裕氏
	12月27日		慶應義塾大学看護医療学部地域看護学分野専任講師 石川 志麻氏
●苦情や対応困難事例への対応、身の安全を守るためのスキルの向上に向けた研修	12月26日	地域包括支援センター職員	田園調布学園大学人間福祉学部学部長・教授 村井 祐一氏
●サービス担当者会議等を円滑に運営していくためのファシリテーター研修	31年 2月19日	地域包括支援センター職員 主任開会后支援専門員	HEARTANDBRAIN COMMUNICATION 石井 宏明氏
●スーパービジョンに関する研修	31年 1月29日		社会福祉法人いきいき福祉会法人本部総合施設長 成田 すみれ氏

2 平成31年度の人材育成研修の取組方針等

上記のうち、苦情等への対応スキル向上に関しては、対応の基本等について習得できたものとする。

一方、地区診断及びスーパービジョンについては、新たな地域包括支援センターの設置が予定されていることや、地域包括支援センターが組織として有機的に機能していくために、継続する必要性が高いものとする。

そこで、31年度については、3職種がそれぞれの専門性を発揮しながら、担当地区の特性の分析や地区診断を実施し、その結果について地域の関係者と共有し、課題解決に向けた意見交換ができるよう、地区診断に関する研修を重点的に実施することとする。

また、ファシリテーション及びスーパービジョンに関する研修については継続して実施する必要がある。